

## 平成26年度 JICA 研修 災害に強いまちづくり戦略

- JICA Strategy for Resilient Societies to Natural Disasters -FY2014



研修最終日、閉講式にて



研修期間：平成27年1月12日～3月7日（8週間）

研修場所：神戸市/岩手県/宮城県/和歌山県

研修内容：各国の状況に即した災害に強いまちづくり戦略を立てるための参考に資するため、災害マネジメントサイクル（Disaster Management Cycle）の視点から、初動・応急対応（Relief・Response）、復旧・復興（Recovery）、減災（Mitigation）、予防（Preparedness）の各フェーズにおける有効な手法・取り組みを学ぶ。

参加研修員：8ヶ国14名（ブラジル(2)、ミャンマー(1)、ネパール(2)、フィリピン(3)、タイ(2)、トンガ(1)、トルコ(1)、ブータン(2)）

当財団では、独立行政法人国際協力機構(JICA)からの委託を受け、公益財団法人 神戸都市問題研究所のご協力の下、「災害に強いまちづくり戦略」研修を実施しました。自国で防災計画策定に関わる機関の行政官などを8ヶ国から迎え、8週間の研修を行いました。

本研修は、日本の過去の大災害における教訓・経験により、明らかになった自然災害に強いまちづくりの要素を研修参加国と共有することにより、各国の災害被害の軽減に役立ててもらい、自国の災害に強いまちづくりの為に防災計画策定に活かすことを目的とする研修です。また、研修は、災害マネジメントサイクル（下記※注1）をもとに、「初動・応急対応」、「減災」、「復旧・復興」、「予防」「防災教育」について各週ごとに学ぶように構成されており、研修員はそれぞれのテーマに沿って様々な取り組み等について、神戸市関係者や他、地方自治体関係者などからの講義や視察に参加しました。

※注1）災害マネジメントサイクル：災害応急対応→復旧・復興→予防・減災→事前準備といった、防災活動を局面に分けた構造のこと



## ~~~~~研修を振り返って~~~~~



研修員たちは神戸での講義などの他、東日本大震災の被害を受けた岩手県、宮城県、また近い将来に起こるといわれている南海トラフ巨大地震で被害が予想されている和歌山県海南市を視察し、8週間の研修を無事終えました。

研修前半では、1月17日に東遊園地で開催された阪神・淡路大震災の20年追悼行事「希望の灯り」に参加し、竹灯籠に火を灯したり、復興のモニュメントに花を供え、震災への理解を深めました。また同日実施されたメモリアルウォークイベントやHAT神戸で実施された追悼イベントにも参加しました。(写真①)

その後、神戸市危機管理室で危機管理体制や、災害発生後のコミュニティラジオの役割、避難所・仮設運営、災害広報、またジェンダー問題についてなど、神戸市の関係部局やNPO法人の方を講師に招き、講義を受けました。三木市にある広域防災拠点に見学した際は、火事を想定した煙の充満した部屋を体験したり、地震のゆれが体験できる起震車に乗り、阪神・淡路大震災や、東日本大震災の際と同じ揺れを体験しました。また、備蓄倉庫では、備蓄されている災害時に配給される救援物資（食料、毛布など）についてそれぞれ説明を受けました。(写真②)



① 1月17日。東遊園地の「希望の灯り」に参加し、ろうそくに火を灯す研修員たち。



②兵庫県広域防災拠点（三木市）にて備蓄倉庫を見学。どのような資機材等が備蓄されているのか説明を受ける様子。

2月には、4年前に発生した東日本大震災について学ぶため、岩手県宮古市、大槌町、宮城県気仙沼市、南三陸町、東松島市を訪問し、行政の方の講義、住民の語り部の方のお話、NPO団体の方などから、当時の状況、その後の復興計画や復興段階での課題などをお話いただきました。岩手県宮古市田老地区では、「万里の長城」と呼ばれた防潮堤があった場所（津波により一部損壊）で住民の方より、当時の様子や思いなどお話いただき、研修員たちは防潮堤（ハードウェア）があっても安心せずに、各自が高台へ避難することの重要性を認識しました。(写真③は、東北視察中、岩手県から宮城県へ移動する際にバスの車窓から見えた「奇跡の一本松」)

東北視察後は、神戸の阪神・淡路大震災からの復興の取り組みとして、HAT神戸に建てられた災害公営住宅や、被災した高齢者への対応についての講義、JR六甲道駅南側・北側で実施された再開発事業や土地区画整理事業について説明を受け、実際に復興事業が実施されたJR六甲道周辺を視察しました。(写真④は JR 六甲道駅北側(土地区画整理事業が実施されたエリア)を視察した際に立ち寄った六甲風の郷公園)

研修後半では、まる1日使ってまちあるき・ハザードマップ（下記※注2）作成も実施しました。午前には灘区青谷地区(山側)を歩きながら災害時に危険と予想される場所を特定したり、また避難できる場所や、消火栓の場所の確認など、グループ毎にメモをとったり、写真を撮って、その午後、集めた情報を、地図内に書き込んだり、写真を貼ってハザードマップを作成し、発表しました。(写真⑤)



③「奇跡の一本松」（岩手県陸前高田市）。周囲にはかさ上げの為にベルトコンベアが多く設置されていた。



④阪神淡路大震災後、区画整理された JR 六甲道北地区にある六甲風の郷公園

また近い将来に起こるといわれている南海トラフ巨大地震で被害が予想されている和歌山県海南市を2日間視察した際は、まず1日目に、海南市役所の方から南海トラフ巨大地震対策についてご説明いただき、ハード対策として設置されている避難広場や黒江防災コミュニティセンターを視察しました。2日間の視察では、塩津小学校にて、海南市の塩津地区の自主防災会（住民組織）のメンバーの方に活動内容についてお話いただき、また地区を歩きながら防災倉庫なども見せていただき、ご説明いただきました。（写真⑥）また、塩津小学校の児童のみなさんには、授業で作成した「塩津防災マップ」について説明していただきました。

こうして講義・視察で聞いた事・見た事をもとに、研修最終日には、14名の研修員全員が、アクションプラン（下記※注3）を作成し、日本で学んだことを自国でどのように活用し、実践していくかについて、発表してくれました。世界中で自然災害が多発する現在、研修員がこの研修で得た知識・経験を今後、自国の災害に強いまちづくりのために活かしてくれることを期待しています。

※注2）ハザードマップ：自然災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化したもの

※注3）アクションプラン：研修員自身の業務上抱える課題解決のための行動計画



⑤灘区青谷地区をまちあるきした後、研修員たちが発見した街の危険箇所、それに対する改善策をまとめたハザードマップ作成



⑥和歌山県海南市塩津地区防災会のメンバーに街歩きしつつ設置されている資材等の説明を受けた

研修担当：事業課 丹後 千里

委託元機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)関西国際センター

研修指導機関：公益財団法人 神戸都市問題研究所

講義/視察先：神戸市、兵庫国際交流協会、アジア防災センター、人と防災未来センター、ムラのミライ、FM わいわい、大阪府立大学、K-T E C、国際緊急援助隊事務局、兵庫県広域防災センター、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム、ひ



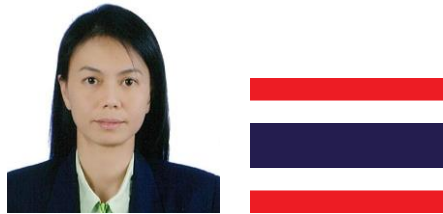
ようご震災記念 21 世紀研究機構、宮古市役所、(社)南三陸町観光協会、(社)宮古観光協会、大槌町復興局、気仙沼まちづくり支援センター、野蒜地域交流センター (N まっぷ)、兵庫県復興支援課、ハピータウン KOBE、野田北ふるさとネット、森崎建築設計事務所、神戸市産業振興財団、コミュニティサポートセンター (CS 神戸)、総務省、防災インターナショナル、和歌山県海南市役所総務部、和歌山県海南市塩津地区防災会、すまいるネット、神戸すまいまちづくり公社、神戸市消防局、魚崎町災福祉コミュニティ、兵庫県立舞子高等学校

【順不同、敬称略】

～研修員の声『神戸を訪れて(要約)』～Participant's Voice『VISIT TO KOBE』～

国名：タイ 名前：Ms.POTISAT Korakot

所属：内務省防災減災局/防災・減災地域セクター18(プーケット地区)・研修課



My name is Korakot Potisat, my Japanese friend called me 'Tah San' which is y nickname. I was a participant from Thailand for the 'Strategy for Resilient Society to Natural Disaster' programme which organized by JICA Kansai and Honjo Sensie was the Programme Director. He is my first impression person here!!!

I have been here as the second time. The first time was in December 2014 just only 1 night and 1 day on the Luminaire Day in Kobe, it was so nice. This was the second impression event here!!! At that time, Kobe in my view is very organized city plan, very nice and peaceful city, I felt safety everywhere I went around the city.

My second time was to attend the programme I wrote. I stayed in Hat Kobe area for almost 2 months and travelled wide Kobe City such as Maya Mountain, Rokko Mountain, Hyogo Tsu-no-michi area, Akashi-kaiko Bridge (pearl Bridge) in Maiko area, Kitano area, Kobe Port and Sannomiya area. There are many things made me interested in and I had to go back again and again. All these places are the third impression things here.

Then, my accommodation in Hat Kobe was JICA Kansai. It was very comfortable for me and my lifestyle. As it located along the seaside, the weather was so nice, freshly and breezing. It was good for doing exercise both in the morning and evening time. There are many kindness JICA staffs, useful equipment, and great meals. I just wish and hope to come back to stay in JICA Kansai as my TEMPORARY Housing again in future. This is also my fourth impression.

The last one are all the programme staffs – they are so nice, kindly, friendly and patient persons. Thank you all of you that made me had once great chance in my life to temporary stay in Kobe City with all lovely participants from 8 countries. I always thinking all of you and also missing all of them and nice city, Kobe. These are my fifth impressions.

Finally, thank you all good and bad things in this earth that made us had to learn to live with. Moreover, thank you the big world that take all of us to be friend and bring happiness to our life.

私はコラコット・ポティサットといいます。日本の友達にはターさんと呼ばれます。私は神戸都市問題研究所の本荘先生をアドバイザーとする JICA 関西の「災害に強いまちづくり戦略」という研修にタイからの研修員として参加しました。

私にとって2回目の来日、神戸訪問となります。1回目は2014年12月に1晩だけルミナリエを見に来ました。とてもきれいでした。当時、私は神戸はとても整備された都市で、落ち着いていて素敵で、どこに行くにも安心感が持てました。そして2回目がこの研修参加です。2か月ほど神戸に滞在し、摩耶山、六甲山、津の道、舞子の明石海峡大橋、北野エリア、神戸港、そして三ノ宮エリアなどいろいろなところに足を運びました。どこもおもしろいところばかりで、何度も何度も訪れました。

神戸での滞在については、とても快適で私に合っていました。海辺に面しているので天気はとてもよく空気も新鮮で風も気持ちよかったです。朝や夕方に運動するのに最適でした。親切的な JICA スタッフや、設備、そしておいしい食事もあり、充実していました。また神戸のこの「仮設住宅」(講義で仮設住宅について学んだので、その表現を使わせていただきます)に戻ってきたいと思っています。

最後に、お世話になったすべての関係者みなさんはとても親切で、フレンドリーで、8か国からの研修員とともに神戸でのこの研修の機会を与えてくださったことに感謝しています。これからもみなさんのことや神戸のことはいつも心の中にあります。

世界各国からの研修員、関係者との出会いに感謝するとともに、みんなが幸せでありますように。

(以上)

~~~~~

国名：ブータン      名前：Mr.TENZIN Ugyen M  
所属：公共事業省/移住部   地域農村計画課



My stay and training programme in Kobe, organized by the JICA Kansai, KIC and the Kobe Institute of Urban research has been very exciting and rewarding. The lessons I learnt and the skills I acquired will not only improve my approach and performance at work but they will influence my life far beyond my work life. And of course the professional networks and personal friendships that I developed with the resource persons and experts, our advisors, the coordination team and with participants from other countries will be cherished for life.

On 17 January 2015 I participated in the 20<sup>th</sup> Anniversary Memorial Service of the Great Hanshin-Awaji Earthquake. It was a solemn and inspiring experience for me. A visit to the Disaster Reduction and Human Renovation Institute made me realize the power of nature and how important it is to be aware of and prepared for such disasters. But walking around the beautiful City of Kobe, one could almost be forgiven for thinking the earthquake never happened. True to its motto of 'Build Back Better', there is almost no trace of the devastating earthquake. This made me realize that the way things are done around here must be right and there is so much to learn.

The training programme was thoughtfully designed and it was conducted in the most efficient and systematic way. Our group was exposed to a wide spectrum of learning, observations and experiences. We

listened to lectures from scholars, researchers, field workers, community organizers, volunteers, local residents – all with rich experience and knowledge. We made field visits, participated in drill programmes and exercises and we listened to survivors and experts. Our group also had the privilege of meeting the man at the helm of all the buzz and progress in the City of Kobe, the Honourable Mayor. Personally, I was humbled by the kindness of people I met during my stay here. They opened their doors to us, trusted us with their personal stories and shared their experiences and expertise.

各関係機関の協力による神戸での研修はとても楽しく、たくさんのことを学びました。ここで得た知識と技術は私の仕事で役に立つだけでなく、私の生活にも大きく影響することとと思います。そして日本で出会った先生方、関係者、他国の研修員との関係はこの先も大事にしていきたいとと思います。

2015年1月17日には、阪神・淡路大震災の20周年で開催された追悼行事に参加しました。私にとっては厳粛で印象的な経験でした。人と防災未来センター訪問では、自然の脅威と災害への備えがいかに大事かに改めて気づかされました。ですが、美しい神戸の街を歩いてみると、もう二度と地震は起こらないのではないかと思います。「よりよい復興」のモットーの下、神戸にはもはや、ほとんど壊滅的だった地震の跡は残っていません。それを考えると神戸の復興のためにされてきた取り組みは適切なもので、そこから学ぶことはとてもたくさんあると思います。研修は十分に計画され、運営もとても効果的に、組織的に実施されました。私たち研修員グループはとても広い範囲に渡る内容について、講義・視察などを受けることができました。大学の先生方や研究者や現地調査している方や、コミュニティで活動している方、ボランティア、そして地域住民の方などいろんな方々にお世話になり、いろいろな経験をさせていただきました。防災訓練に参加したり、被災者のお話を伺うこともできましたし、神戸の発展を指揮されている尊敬すべき神戸市長にもお会いすることができました。この研修中で出会った人々の優しさに頭が下がる思いになりました。心を開いてくださり、自身の経験や専門知識を共有してくださり、とても感謝しています。

(以上)

~~~~~

国名：ブラジル 名前：Mr.RAMPINELLI Cassio Guilherme  
所属：国民保護・国民防衛事務局/復旧・復興部 インフラ分析官



The *Strategy for Resilient Societies to Natural Disasters* training course hosted by Japan International Cooperation Agency – JICA/ Kansai with support of Kobe International Community Center – KIC was a remarkable experience to me. We not only could improve our knowledge regarding disaster management, but we also exchange experiences with participants from different countries making good friends. In addition, we learned a lot about Japanese culture and customs.

The training course covered all phases of the disaster cycle: pre (Mitigation and Preparedness) and post (Recovery and Relief & Response) disaster. At the two first weeks we had a general orientation about the training program and Japan, including lectures on

Japanese economy, politics and also Japanese language classes. The latter, in my opinion, was the starter point of the social ties of our group. We learned basic expressions in Japanese, while we were having fun and knowing each other. Two memorable activities of this first part were: the participation in the 1.17 Light of Hope Ceremony/ Memorial Walk and the International exchange in the Ichikawa Junior High School.

Both activities really touched my heart. The former was not only a symbol of respect for those one that were victims of the Great Hanshin Awaji Earthquake, on January, 17, in 1995, but also a message for future generations that the lessons learned by the sacrifice from the suffers and survivors should be passed on to the future generations. The latter was a wonderful moment in which we exchanged cultural information with junior high school students through interesting activities and so many smiles. I was thrilled to see the kindness and candidness of the kids and to realize how they have gotten excited in have been in touch with people from different cultures. Furthermore, I could see the strong sense of community when they were preparing the lunch and cleaning the school facilities. These actions made me realize why the cooperation rate among Japanese citizens is so high. Since the young age they learn how to share their activities and the importance of the group work to succeed. I'm sure that this behavior is one of the key points to overcome critical situations such as huge natural disasters.

At the third and fourth week we learned about Relief & Response, Mitigation and we also did a field trip to Tohoku region. In this region, we visited affected coastal areas of Iwate and Miyagi prefectures, which were desolated by the Great East Japan Earthquake and Tsunami, in 2011, on March 11. In this area, I realized how powerful the Mother Nature could be and how insignificant are the human beings to the destructive power of the nature. However, we also learned that if you respect the power of nature, if you stay aware about human's limitations and if you cultivate the memory of past disasters is possible to overcome the fear and live in harmony with nature.

The second half of the training course covered the matters of Recovery, Preparedness and our own final presentations. I really appreciate the broad idea of Recovery from the Japanese approach. After a disaster, not only the infrastructure should be restored and improved but also the social ties, mental and physical health, economic and financial situation, the housing and communities and the involvement with the government so that all the livelihood could be recovered. This is the well-known concept: "*build back better*".

Talking about the presentations, I think that they were a good way to learn by doing. After been in touch to a variety of information from diverse lectures, workshops and others activities we had the opportunity to propose the application of what we have learned in our own country making an Action Plan and sharing it with other participants doing a presentation to our group.

In conclusion, this training course was not only a way to acquire and improve our knowledge in disaster management, but also an opportunity to establish new friendships overseas with the purpose to share experiences in disaster management so that we could try to make some difference in making the cities of our countries more resilient to natural disasters.

「災害に強いまちづくり戦略」研修は素晴らしい経験でした。防災知識を向上できただけでなく、他国から参加していた研修員のみんなと意見交換ができ、よい友達になりました。加えて、日本文化や習慣についても学ぶことができました。

研修はすべての災害の局面（事前：減災、予防、事後：初動対応、復旧・復興）をカバーしていました。最初の2週間は研修についての日本の経済、政治や日本語などを学びました。後半は参加研修員同士の友情を深める機会となりました。日本語の勉強では、基本的な表現を学びながら楽しく、研修員同士お互いを知ることができました。最初の2週間での印象に残った、忘れられないことが2つあるのですが、それは1月17日の東遊園地での「希望の灯り」追悼行事、そのあとの王子公園からHAT神戸までのウォーキングイベントに参加したことと、神戸市内の市川中学校の学生たちと国際交流できたことです。

どちらの活動もとても感動するものでした。「希望の灯り」追悼行事の方は、単に阪神・淡路大震災で犠牲になった方々を追悼するシンボリックな行事としてだけでなく、未来の世代に向けてのメッセージでもあります。市川中学校の訪問は、数々の楽しい活動を通して中学生と文化交流ができた素敵な時間でした。学生のやさしくて率直な姿勢や、異なる文化から来た人々と交流することを楽しんでくれたことが感動しました。さらに、近隣の住民の人々が昼食を準備してくださったり、学校の掃除をしているのをみていて強いコミュニティの絆を見ることができました。こういったことをみていると日本人の、お互いに協力する気持ちがどうして強いのかということがわかりました。若い時から、生徒が共に行動することや共同作業の重要性を学んでいました。きっとこういった態度は、大災害など危機的状況を乗り越える為の大切なキーポイントであると思います。

3. 4週目は初動対応、減災について学び、また東北視察へ行きました。東北では、岩手県・宮城県沿岸部の被災した地区を訪れました。そこで、自然の恐ろしさ、人間の無力さを感じました。しかし、それと同時に自然を大事にし、人間の限界に気づき、過去の教訓を生かせば自然と共存し、脅威を乗り越えられることを学びました。

研修後半は復興、予防について学び、最終日は私たちのプレゼンテーションがありました。私は復興に関する日本の取り組みを聞いてとてもよかったと思います。災害後はインフラ復旧だけでなく社会の絆といった人々の精神的、身体的な回復や、経済復興、住宅再建、コミュニティ再建など暮らしが回復できるよう、政府の関わりも必要だと学びました。よく知られている「よりよい復興」という概念です。

研修で受けた講義については、様々な講義やワークショップやその他の取り組みを受けた後に、アクションプランを作ることで、学んだことを応用し、またそれを他の研修員たちと発表を通して共有することがよい機会となりました。

最後に、この研修は単に我々の知識習得・向上の為だけでなく、世界各国からの研修員と新たなつながりをつくり、お互いの防災の経験・意見を交換する機会となり、またこれから自分の住んでいるまちを災害に強いまちにしていくための機会となりました。

(以上)

~~~~~